

曾我廼家五郎 & 益田太郎冠者

ジャパニーズ・コメディを読む!

◎ 第十三回 日本の近代戯曲研修セミナー in 東京 ◎

東京ブロック「大正」シリーズ第三回にあたる今回は、「ジャパニーズ・コメディを読む!」と題して、松竹新喜劇の源流にあたる曾我廼家五郎、帝国劇場の座付き作家であった益田太郎冠者を取り上げます。作風や活躍したフィールドは異なりますが、ともに明治後半から演劇活動に携わり、日本近代「喜劇」の創出と発展に勢力を注いだ人物です。彼らが明治・大正・昭和と移り変わる世の中のなかで、何を見、何を描き、何を夢みたのか。全8回の〈研修〉と2日間の〈リーディング&シンポジウム〉で探っていきます。

研修日(全8回) 料金: 各回500円

研修の様子を見学できます。また、議論への参加も歓迎します。
(協会無料。テキスト代は別途実費の場合あり。7月20日のみ特別無料。)

7/20(月)17:30~21:30 「作家を知る」

研修への入り口として、研究者の方によるレクチャーを開催。それぞれの作家の人生を知ること、作品と時代との関わり、どのような変化が訪れているかを学び、作家の魅力と特徴を探る。(会場: 北沢タウンホール 第一集会室)

17:30 ~ レクチャー 講師: 星野高(近代日本演劇史研究)

「益田太郎冠者の生涯と作品」

19:30 ~ レクチャー 日比野啓(演劇史・演劇理論)

(予定)

「忘れられた喜劇王・曾我廼家五郎と演劇近代化の諸問題」

7/23(木)13:00~17:30 「戯曲に触れる」

戯曲を声に出して読んでみることで、作品の言葉に触れると同時に、研修参加者が戯曲あるいは作家に対しての課題を持ちよりそれについて議論する。(芸能花伝舎A-3教室)

7/30(木) 13:00~17:30

「日本における喜劇(論) — 喜劇とコメディとファルスと — 」

一口に「コメディ」といっても多種多様。戯曲に書かれているのは「コメディ」? 「喜劇」? 「ファルス」? 参加者が抱いている「コメディ」のイメージから戯曲を眺めてみる。(芸能花伝舎A-3教室)

8/1(土) 13:00~17:30 「ジャパニーズ・コメディと観客」

どんな観客に向けて演じられ、どんな反応・影響を引き起こしたのか。当時の上演と観客との関係を意識することで、いまリーディングすることの目的を明確化していく。(未生文庫)

8/6(木) 13:00~17:30 「戯曲を読み込む」

課題戯曲の精読を行い、戯曲の構造などを分析する。(未生文庫)

★以下の3日間はこれまでの研修成果をもとに、リーディング発表に向けて研修を重ねる。
8/8(土)、13(木)、14(金)、いずれも13:00~17:30(芸能花伝舎A-3教室)

リーディング&シンポジウム リーディング演出 黒川逸朗/佐々木治己

8月15日(土)

15:00~ドラマリーディング

曾我廼家五郎 & 益田太郎冠者作品を
それぞれ1作品ずつ

(予定) 17:00~シンポジウム

「益田太郎冠者とジャパニーズ・コメディ」

パネラー/星野高(近代日本演劇史研究)、他

8月16日(日)

15:00~ドラマリーディング

曾我廼家五郎 & 益田太郎冠者作品を
それぞれ1作品ずつ

(予定) 17:00~シンポジウム

「曾我廼家五郎とジャパニーズ・コメディ」

パネラー/日比野啓(演劇史・演劇理論)、他

◎会場: 芸能花伝舎 ◎料金: 各回1500円(全席自由)

※協会無料

※チケットをご購入の方は、シンポジウムには両日参加可能です。